

平成25年6月1日

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

編集：郡山市

JA 郡山市 (Tel. 921-0724)

NOSAI 郡山田村 (Tel. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 Tel. 924-3761)

Vol.4 「除草・防除・中干し」次回は6月下旬

*最新号はJA各支店に備え付けてあります

1 生育状況

播種盛期は4/16 (平年並)、移植盛期は5/15 (平年比+1日)となり、播種、移植ともにほぼ平年並となりました。育苗期間の気温は低く経過したため、苗の草丈は短めになりました。移植後の生育は周期的に風の強い日があり一部で植傷みが発生していますが、概ね良好です。

2 天気予報 (東北地方)

【1か月 (5/25~6/24) 予報】 (5月24日 仙台管区气象台発表)

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。

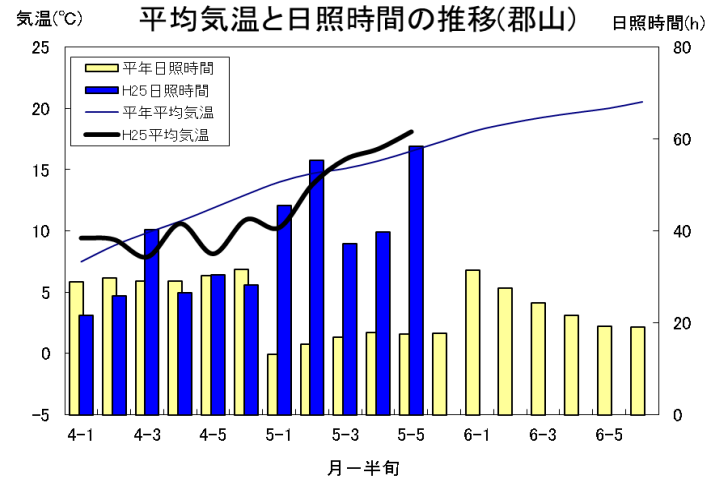
【3か月予報】 (5月23日 仙台管区气象台発表)

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等は以下のとおりです。

6月 前半は天気は数日の周期で変わるでしょう。後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

7月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

8月 平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。



3 水管理「浅水で有効茎を早期に確保しましょう！」

○活着後は、浅水で水温の日較差を大きくし、有効茎を早期に確保しましょう。

○稲の直りが悪い場合は、土壌還元による根腐れで養分を吸収できない状態になっている恐れがあります。田に入ると泡が出たりくさい臭いがしたりする時は、早急に落水し1~2日干してガスを抜きましょう。

4 雑草防除

(1) 雑草が残った場合

○残った雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除しましょう。

ヒエだけが残った場合 クリンチャー1キロ粒剤

※ノビエ4葉期まで1.0kg/10a散布、ノビエ5葉期まで1.5kg/10a散布

広葉雑草だけが残った場合 バサグラン粒剤 (ナトリウム塩) 等

※バサグラン粒剤 (ナトリウム塩) は、落水して散布して下さい。

ヒエも広葉雑草も残った場合

ハイカット1キロ粒剤

※ノビエ3.5葉期まで。クログワイは草丈30cmまで。

フォローアップ1キロ粒剤

※ノビエ5葉期まで。オモダカは草丈30cmまで。

(2) アオミドロ、表層はく離が出た場合

アオミドロ、珪藻類の発生量が多いと、水温上昇を妨げ、生育の分けつ阻害をもたらします。発生の多少はいろいろな要因によりますが、代かき後や田植後の施肥によって発生を助長することがあります。

アオミドロや表層はく離が発生した場合は、落水してアオミドロ等を田面に付着させてから再度入水するか、**モゲトン粒剤**を散布して防除してください。

5 葉いもち防除「葉いもちを発生させないことが最善の穂いもち対策です！」

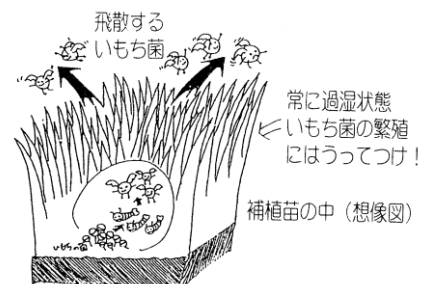
(1) 置き苗の処分

○補植用の置き苗は葉いもちの発生源になるだけで、何の役にも立ちません。

補植作業は5月末までに完了し置き苗は水田周辺に放置しないようにしましょう。

(2) 本田の粒剤防除

○箱施薬剤を使用していない水田では、オリゼメート粒剤やコラトップ粒剤5等を平坦部では6月20日頃、山間高冷地では6月25日頃までに散布しましょう。散布後7日間程度は落水せず、止水としてください。



6 害虫防除「農薬の使用に当たっては、周辺農作物への飛散（ドリフト）に注意しましょう！」

箱施薬剤を使用していない水田や使用していてもイネドロオイムシが多発した場合は、下記の殺虫剤を使用してください。

農薬名 (商品名)	総使用回数 本剤のみを使用する場合	農薬成分の系統	蚕毒規制地域
トレボン粉剤 DL・乳剤・EW	3回以内	ピレスロイド系	使えない
シクロパック粒剤	2回以内	ピレスロイド系	使える

※これらの殺虫剤の粉剤、乳剤等の散布剤は蚕毒規制地域では使えません。飛散の少ない粒剤、パック剤等は使用できます。
※トレボン、シクロパックは、水産動植物への影響が強いため、養魚池・川・湖に飛散・流入する恐れのある田では使えません。

※ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者との連絡を密にし、事故のないようにしましょう。

7 中干し「有効茎を確保したら、タイミングを逃さずに！」

○1株当たり20本程度の分けつを確保したら、中干しを行い、無効茎を抑えてスッキリ型のイネを作りましょう。

○6～7月は例年雨や曇りの日が多い時期です。タイミングを逃さず中干ししましょう。

○溝切り（4～5m間隔）を併せて行い、水の掛け引きを容易に行なえるようにしましょう。

8 カリ追肥「塩化カリを基肥施用していない場合は、必ず追肥してください！」

放射性物質吸収抑制対策のためには、交換性カリ含量が25mg/乾土100gとなるようカリ施肥した上で、慣行の施肥を行います。カリ施用は、塩化カリによる基肥施用を基本とします。

塩化カリ 20kg/10a を基肥施用していない場合は、出穂40～35日前（6月下旬～7月始め）に塩化カリ 20kg/10a を必ず追肥してください。

除染実施時に散布したケイ酸カリは、現状回復が目的であり、放射性物質吸収抑制対策としては、十分ではありません。

塩化カリ 20kg/10a を基肥施用した場合は、追肥のカリ成分が含まれているため、塩化カリの追肥は不要です。

稲体強化等を目的として、ケイ酸カリ等を追肥する場合は、出穂40～35日前（6月下旬～7月始め）に散布してください。

ケイ酸カリ（出穂40日前） 20kg/10a：でき過ぎた田、コシヒカリに有効

PK化成（出穂35日前） 20kg/10a：一般田

この資料は、平成25年5月13日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

* 平成25年度福島県農薬危害防止運動展開中(6/1～8/31)